

小学校での CLIL 実践 ——ABC カルタを使って日本を発信——

藤原 真知子

はじめに

「主体的・対話的で深い学び」を基調とする新学習指導要領が小学校でも2020年度から全面实施される。5・6年生の「外国語」においては、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と謳われている（文部科学省、2017）。

題材を取り上げるときに配慮すべき観点の一つについては、「我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと」との注意書きも見られる。児童が日本の文化と異文化を比較し、様々な考え方が存在することに体験を通じて気付くことが期待されていると言える。

筆者の勤務する聖学院小学校では、外国からの来訪者に児童が日本を紹介する機会が多く、4スキルズを伸ばしながら、外国の文化を理解し、日本の文化を英語で発信する素地を身につけることも英語学習の目的の1つとしている。

本稿では、教科内容やテーマと英語を統合したCLIL（内容言語統合型学習）として、日本の「いろはがるた」のようにアルファベット26文字と音を組み合わせたABCカルタを使い、日本について考えさせ日本を紹介させる授業実践を取り上げる。

ABCカルタができるまで

この実践を始めた当初は、児童に、日本について、外国の人に伝えたいことは何かを、小グループで考えさせ発表させた。児童からは毎年、アニメ、富士山、桜、相撲、きもの、緑茶、温泉、折り紙、すしなど共通のものが多数挙げられた。

教員は、児童のアイデアをA-Zで始まることばにまとめ、次の授業で児童に紹介した。さらに、児童にそれぞれのことばを絵で描くことを宿題と

し、その次の授業で提出させ、レッスンに使用していた。しかし、ここまでの過程にかなり時間がかかったことや、毎年どのクラスでも児童からほとんど同じアイデアが出されたことから、絵札と読み札がセットになった独自の日本紹介ABCカルタを作成した（藤原・バード・相羽、2009）。

実践の手順

聖学院小学校では、各学年45分の英語の授業が週に2回ある。ここでは、高学年を対象にした45分レッスン5回の実践例を紹介する。

レッスン1：

日本紹介ABCカルタの大きい絵札を黒板に貼るかスクリーンに映す。Aの絵札（図1左上）を指して

A / æ / Anime

とリピートさせる。Aはアルファベットの文字、æはその文字が表わす音、Animeはその文字から始まる言葉である。

その過程で、なぜ日本のアニメは人気があるのかなど考えさせ、日本のアニメに関連する場所やグッズなどを目的に海外から日本を訪問する外国人も多いなどとスモールトークを交える。

また、Mの絵札（図1左下）を使って

M / m / Mt. Fuji

とリピートさせてから、なぜ富士山が有名なのか（Why is Mt. Fuji famous?）と質問する。児童からは、日本で一番高い、きれいな、世界遺産、などの答えが出る。教師は英語で返すとよい。

It's the highest mountain in Japan.

It's beautiful.

It's a World Heritage Site.

このように1つ1つの項目について考えさせる。児童の英語レベルに応じて、英語で質問を問いかけたり、日本語を交えたりしながらAからZまでの

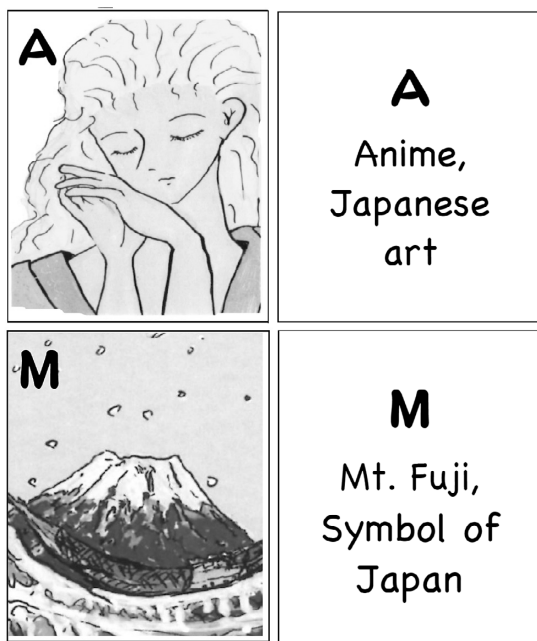


図1 絵札（左）と読み札（右）

ことばを学ぶ。

次のようにクイズにしてグループで答えさせることもある。

Where is Mt. Fuji?

- ① It's in Yamanashi.
- ② It's in Yamanashi and Shizuoka.

How high is Mt. Fuji?

- ① 3776m
- ② 3376m

まとめとしてプリント1（図2上）を読み、内容を確認する。

レッスン2：

A / æ / Anime / Japanese art

のようにレッスン1の内容に簡単な説明を加える。AからZまで絵札を見てリズムよく言えるように練習する。これが言えるようになったら、読み札（図1右）またはプリント2（図2中）を使って、読む練習をする。内容は学習してあるので児童にとって読みやすい。次にカルタ遊びをする。

《カルタ遊び1》 まず、A / æ / Anime と教師が言い、児童は絵札をとる。次にJapanese art と簡単な説明文を教師が言い、児童はAnimeの絵札をとる。クラスを2～3のグループに分け、それぞれの代表者を前に出させてクラス全員で大きい絵

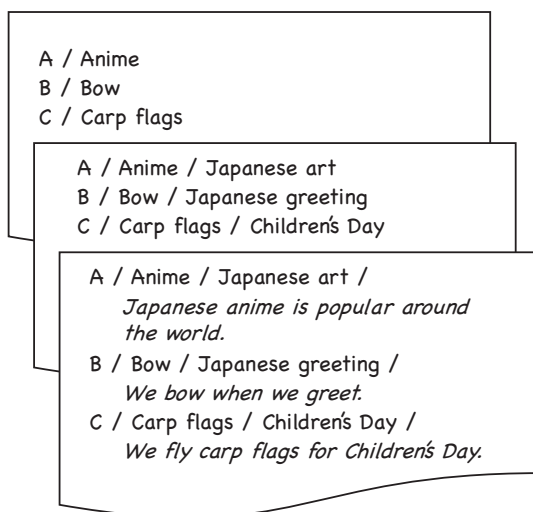


図2 プリント1～3（上～下）
段階的に児童に渡す。

札を使ったり、小グループで小さい絵札を使ったりできる。

児童は宿題で、プリント2を見て絵にあった文を書き入れるワークシートに取り組み、アニメの絵にAnime / Japanese art などと書く（図3）。

日本紹介カルタを完成させましょう Introducing Japan		
A		Anime
B		Japanese greeting
C		Carp flags

図3 ワークシート（一部抜粋）

レッスン3：

次にAからZまでの各語に関する詳しい説明を英語で学ぶ。

Japanese anime is popular around the world.
教師は、スモールトークの内容やレッスン1で児童から引き出した答えも簡単な英語で交えながら授業を進める。海外との比較も取り入れると、児童が多様な文化の存在に気づくきっかけとなる。
《カルタ遊び2》

This is Japanese art. / It's popular around the

world.

などとヒントを言い、児童はAnimeのカードを取る。説明文もヒントとして加えることで、児童は聞き取る力を養う。

レッスン4:

詳しい説明のプリント3 (図2下) をクラス全員またはグループで読む練習をする。レッスン3で学習した内容の確認となる。英文を書き写すと、さらに英語が定着する。

《カルタ遊び3》 児童は、両手を頭の上に上げ、先生の英語

Japanese anime is popular around the world.

を聞いて繰り返し、その絵札をとるか、または指差す。文を繰り返さずにカルタを取ってはいけない。

レッスン5:

グループで分担して詳しい説明を覚え、発表する。例えば36人のクラスであれば、6人ずつ6つのグループに分け、1つのグループが4つか5つ担当して割り当てられた部分をグループで練習する。大きい絵札、あるいはスクリーンに映した絵札を指して、次のように発表する。

A / æ / Anime / Japanese art

Japanese anime is popular around the world.

(I like Totoro. など一言加えることもできる。)

次にグループに割り当てる文を変える。何度かこれを繰り返すとAからZまでのグループ発表ができる。すべてを覚える児童も少なくない。

《カルタ遊び4》 読める児童は読み札を読む係になり、グループでのカルタを楽しむ。この段階になると、日本に関する教員と児童の英語でのやりとりも活発にできるようになっている。

日本を伝える課外活動

聖学院小学校では、この日本紹介ABCカルタを使って日本を紹介する機会が大変多い。例えば、5年生の英語キャンプで、毎年海外のスタッフやクルーとこのカルタを楽しみながら、日本の紹介をしたり、児童がホームステイ先へこのカルタを持っていき、ホームステイ家族に日本を紹介したり、姉妹校であるオーストラリアの小学校から児

童が来日した際にこのゲームを通して、日本を紹介したりする。

ご当地カルタへの応用

筆者は、カルタを使った日本紹介CLILを私立・公立小学校英語クラス、小学校教員英語研修などで長年に亘り取り入れている。ここでは、日本をABCカルタで紹介したが、同僚のバード氏と毎年小学校英語指導者研修を担当している山梨県立大学では、これを応用してご当地カルタが作成された(高野, 2016)。また、世田谷区立Y小学校では、英語支援委員で世界の国紹介のカルタへと応用させた。どれもアルファベットカルタがフォニックスの学習になるように作成すれば、授業のウォームアップとして、毎レッスンの始めに使用することもできるほか、児童がグループで内容を考える良い機会にもなる。

おわりに

ABCカルタを使ったCLIL的实践では、内容の理解や推測という認知的活動(Cognition)を伴うだけでなく、グループやクラスでの協学(Community)が行われる。言語(Communication)の面でレッスン1からレッスン5まで段階を追って足場作り(Scaffolding)をすることで、児童の発話を促している。

このカルタを使ったCLIL的实践を通して、児童は日本についての知識を深め、リスニング力やリーディング力(受信型スキル)の向上を図ることができる。さらに、フォニックスで音と文字をつなげ、楽しみながら英語を定着させ、海外の人に日本を発信できるスピーキング力やライティング力(発信型スキル)を育成する。レッスン終了後の児童のコメントには、「自分が日本について知らないことが沢山あった」「日本についていろいろと説明できて嬉しい」というものが多い。

もちろん、ABCカルタのテーマは、日本だけに限らない。何かをテーマに、教師と児童皆で考え、ALTの協力を得て独自のABCカルタを作れば、カルタで遊びながら英語を身につけることができる。題材にとらわれずに体験的で楽しい学びが実現するのである。さらに、発表の機会を設ければ、英

語に対する自信を身につけ、4 スキルズを伸ばすことになる。発信型の英語を身につけるためにも、このような自作のカルタを使用したCLIL的なレッスンをお勧めする。

参考文献

高野美千代 (2016), *Yamanashi English*. 山梨：山梨県立大学 (教材作成に本学のブライアン・バード氏が助言)
藤原真知子, ブライアン・バード, 相羽千州子 (2009).

Japanese ABC かるた. 東京：Eduport
文部科学省 (2017). 小学校学習指導要領 (平成29年告示)
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf (最終閲覧日：2019年1月4日)

(ふじわら・まちこ 聖学院大学総合研究所特任講師)